

2021年12月2日

ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチン接種の積極的な勧奨再開後の留意点

日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会

HPV ワクチン接種の積極的な勧奨が再開されました。HPV ワクチン接種希望者が増えることが予想されるため、留意点についてまとめました。

ワクチン接種予約前

- ✓ HPV ワクチン接種にあたっては、その効果と安全性について、事前に本人と保護者の方に十分に理解していただくことが大切です。以下のサイト等が参考になります。

・厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/index.html>

・みんなパピ！

<https://minpapi.jp/>

- ✓ かかりつけ医以外の医師が接種を行う場合、接種に不安のある人や何らかの病気で治療を受けている人には、かかりつけ医に相談することを勧めます。

ワクチン接種当日（接種前）

- ✓ 接種を受ける本人と保護者に対して、ワクチンを受ける効果と安全性について改めて説明し、共有します。特に、接種後、数日以内に起きる可能性が高い副反応（発熱や接種した部位の痛みや腫れなど）について説明し、登校や課外活動に影響が出ることが重要であることをあらかじめ伝えることが重要です。

ワクチン接種当日（予防接種中）

- ✓ 落ち着いた環境で接種を行い、痛みや過敏な子どもに対しては、リラックスできるような話しかけたり、痛みから気をそらすように心がけます。
- ✓ 注射や採血で気分が悪くなったことがある子どもに対しては、横になった状態でワクチン接種を行い、接種後にすぐに立ち上がらせないなどの配慮を行います。

接種手技の確認

- ✓ ワクチンは筋肉注射になります。改めて接種手技を確認しておきましょう。以下のサイトで文章と動画でわかりやすく解説されています（新型コロナワクチン接種用とされていますが、筋肉注射の基本はHPVワクチンも共通です）。

- ・日本プライマリ・ケア連合学会 こどもとおとなのワクチンサイト
ワクチンの筋肉注射（筋注） https://www.vaccine4all.jp/topics_M-detail.php?tid=22
動画： <https://www.youtube.com/watch?v=tA96CA6fjv8>

ワクチン接種当日（予防接種後）

- ✓ アナフィラキシーや血管迷走神経反射に備えて、15～30分ほど観察を行います。

ワクチン接種を受けた後の注意点

- ✓ HPVワクチン接種後に、広い範囲に広がる痛みや、手足の動かしにくさ、不随意運動等を中心とする「多様な症状」が起きたことが副反応疑い報告により報告されています。接種後、このような症状が出現した患者さんが受診した際、接種医療機関、かかりつけ医療機関の医師は、まず患者の訴えを傾聴し、「HPVワクチン接種後に生じた症状に対する診療の手引き」（https://www.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20150819_hpv.pdf）等を参考に診察を行いましょう。患者の症状や希望等を鑑み、必要に応じて各地域の協力医療機関もしくは専門医療機関を紹介しましょう。協力医療機関、専門医療機関については、以下のサイトに示されています。

- ・ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関及び厚生労働科学研究事業研究班の所属医療機関（令和3年4月1日現在）

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/medical_institution/dl/kyoyroku.pdf

その他

- ・現在、小児に対しては定期接種ワクチンとして、小学校6年生～高校1年生相当年齢の女性に対して2種類のワクチン（2価ワクチンと4価ワクチン）のいずれかを3回接種することが可能です。なお、4価ワクチンは9歳以上の男女が接種対象ですが、小学校6年生～高校1年生相当年齢の女性は定期接種として実施可能です。それ以外の対象者は任意接種となります。9価ワクチンは9歳以上の女性に任意接種として接種が可能です。